

商工会議所 L O B O (早期景気観測)

- - 平成 1 9 年 5 月調査結果 - -

(平成 1 9 年 6 月 1 日)

調査期間：平成 1 9 年 5 月 2 1 日 ~ 2 5 日

調査対象：全国の 4 0 7 商工会議所が 2 5 7 9 業種組合などにヒアリング
(内訳) 建設業 3 7 8 製造業 6 1 8 卸売業 2 3 5
小売業 7 3 5 サービス業 6 1 3

調査項目：今月の売上・採算・業況などについての状況 (D I 値を集計)
及び、業界として当面する問題など

D I 値について

D I 値は、売上・採算・業況などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

D I = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)
業況・採算 : (好転) - (悪化) 売上 : (増加) - (減少)

日本商工会議所

本件担当：産業政策部 TEL: 0 3 - 3 2 8 3 - 7 8 3 6
E-Mail: sangyo@jcci.or.jp

なお、本調査結果は日商ホームページ(<http://www.jcci.or.jp>)でもご覧になれます。

【平成19年5月調査結果のポイント】

DI値は4カ月連続改善も、業況はほぼ横ばい

5月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（25.3）よりマイナス幅が0.2ポイント縮小して25.1となり、4カ月連続でマイナス幅が縮小した。

産業別の業況DIは、建設、製造、小売でマイナス幅が拡大したものの、他の2業種で縮小した。

景気に関する声、当面する問題としては、受注確保、売上増加、先行き期待という声が寄せられている一方、売上減少、業況低迷、仕入コストの上昇による採算悪化などを訴える声も聞かれる。

【建設業】では、「ガソリン、鉄等の仕入単価が上昇し、収益を圧迫している」（一般工事）、「公共工事、民間工事受注量の減少に加え、原材料価格も上昇しており、業況は厳しい」（建築工事）、「鉄や油の価格が上昇している」（一般工事）と、仕入コストの上昇を訴える声が寄せられている。

【製造業】では、「業況は総じて順調に推移している。今後も安定した引き合いが見込まれ、先行きは明るい」（一般産業用機械製造）、「受注が好調である。売上、採算ともに改善した」（金属加工機械製造）との声がある一方、「仕入単価の上昇による採算の悪化が懸念される」（通信機械器具製造）、「原材料価格の上昇分を販売価格に転嫁できないため、厳しい状態が続いている」（紙製造）と、仕入コストの上昇や販売価格の低迷を訴える声も寄せられている。

【卸売業】では、「売上が増加し、採算もやや好転した」（衣服・日用品卸売）との声がある一方、「景気拡大と言われているが、当業界では実感できない」（家具・建具等卸売）、「売上が減少している。先行きは楽観できない」（各種商品卸売）、「業況は前年同月に比べ悪化した。個人消費も低迷している」（食料・飲料卸売）との声も寄せられている。

【小売業】では、「業況は比較的好調である。先行きにも期待が持てる」（その他の小売）、「ギフト券の売上が増加した」（商店街）との声がある一方で、「来店客数は増加しているものの、売上に結びつかない」（商店街）、「個人消費に力強さを感じられない」（百貨店）との声も寄せられている。

【サービス業】では、「来店客数が増加し、売上も伸びた」（食堂・レストラン）との声がある一方で、「店が暇であるため、従業員が定着しない」（その他の一般飲食店）、「ビジネスホテルの進出等の影響により、業況は厳しい」（旅館）、「業況は悪化している。景気回復感はない」（旅館）との声も寄せられている。

売上面では、全産業合計の売上DIは、マイナス幅が0.4ポイント縮小して19.9となり、2カ月ぶりに縮小した。産業別にみると、DI値は建設、小売、サービスでマイナス幅が拡大したものの、他の2業種で拡大した。

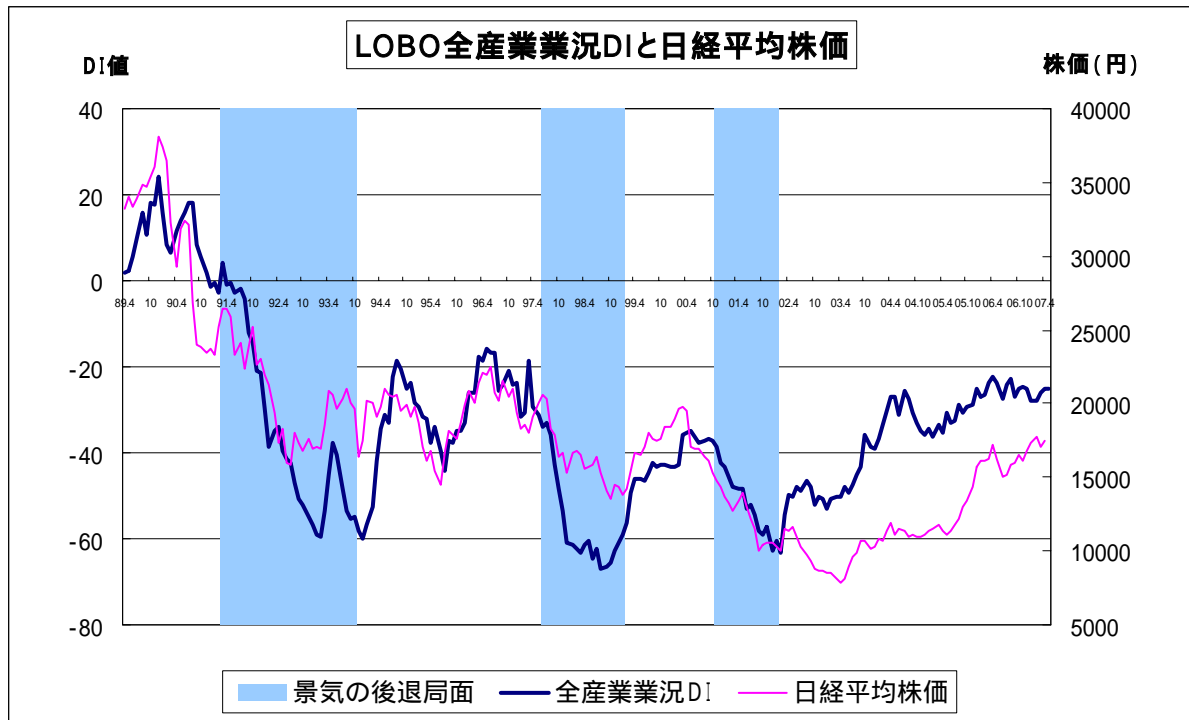
採算面では、全産業合計の採算DIは、マイナス幅が0.4ポイント縮小して25.2となり、2カ月ぶりに縮小した。産業別にみると、DI値のマイナス幅は建設、製造、サービスで拡大したものの、他の2業種で縮小した。

資金繰り面では、全産業合計の資金繰りD Iは、悪化超感が0.1ポイント弱まって18.2となり、2カ月連続で弱まった。産業別にみると、D I値の悪化超感は一建設、製造で強まったものの、他の3業種で弱まった。

仕入単価面では、全産業合計の仕入単価D Iは、上昇超感が2.9ポイント強まって28.5となり、3カ月連続で強まった。産業別にみると、D I値の上昇超感は一卸売で弱まったものの、他の4業種で強まった。

従業員面では、全産業合計の従業員D Iは、不足超感が0.4ポイント弱まって0.2となった。産業別にみると、D I値はサービスで不足超感が強まり、製造で不足超感に転じ、卸売で過剰超感が弱まる一方、建設で過剰超感が強まり小売で不足超感が弱まった。

向こう3カ月(6月～8月)の先行き見通しについては、全産業合計の業況D I(今月比ベース)が23.1と、昨年同時期の先行き見通し(18.2)に比べて悪化している。



【業況についての判断】

5月の景況をみると、全産業合計の業況D I（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（ 25.3 ）よりマイナス幅が0.2ポイント縮小して 25.1となり、4カ月連続でマイナス幅が縮小した。

産業別にみると、建設、製造、小売でマイナス幅が拡大したものの、他の2業種で縮小した。

向こう3カ月（6月～8月）の先行き見通しについては、全産業合計の業況D I（今月比ベース）が 23.1と、昨年同時期の先行き見通し（ 18.2 ）に比べて悪化している。

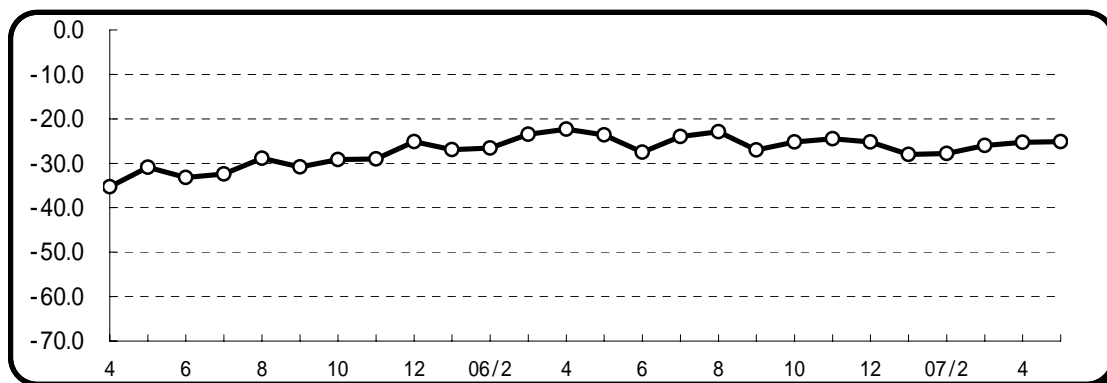
産業別に昨年同時期の先行き見通しと比較した場合、卸売でマイナス幅が縮小しているものの、他の4業種で拡大している。

業況D I（前年同月比）の推移

	18年 12月	19年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6～8月
全産業	25.2	28.0	27.8	26.0	25.3	25.1	23.1 (18.2)
建設	34.4	40.4	41.5	42.8	36.8	40.9	40.3 (34.1)
製造	15.2	18.1	14.3	14.5	20.6	21.3	20.4 (11.9)
卸売	31.3	31.9	35.8	37.7	38.2	27.8	23.5 (26.4)
小売	25.6	28.7	30.0	25.4	19.8	22.2	17.7 (13.6)
サービス	27.0	28.1	27.2	23.7	23.9	20.9	21.1 (17.2)

「先行き見通し」は当月に比べた向こう3カ月の先行き見通しD I
（ ）内は昨年4月の先行き見通しD I < 以下同じ >

《業況D I（全産業・前年同月比）の推移》



【売上（受注・出荷）の状況についての判断】

売上面では、全産業合計の売上D Iは、マイナス幅が0.4ポイント縮小して19.9となり、2カ月ぶりに縮小した。産業別にみると、D I値は建設、小売、サービスでマイナス幅が拡大したものの、他の2業種で縮小した。

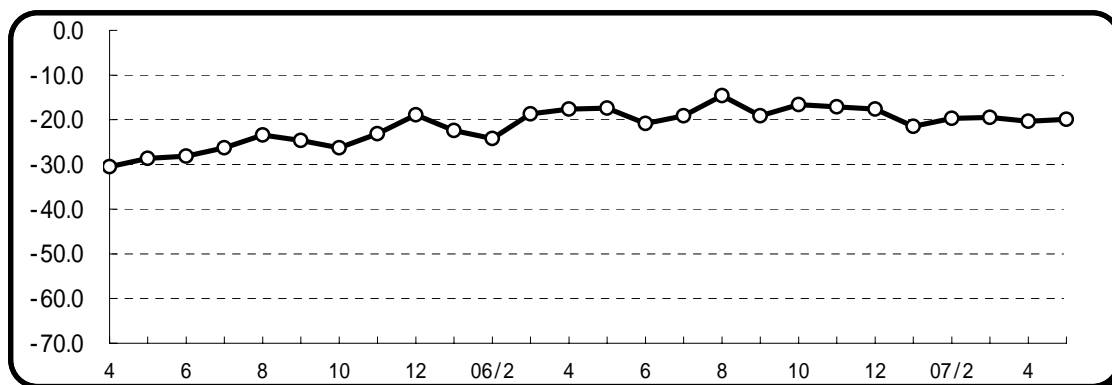
向こう3カ月(6月～8月)の先行き見通しについては、全産業合計の売上D I(今月比ベース)が15.9と、昨年同時期の先行き見通し(13.8)に比べて悪化している。

産業別に昨年同時期の先行き見通しと比較した場合、卸売、小売でマイナス幅が縮小しているものの、他の3業種で拡大している。

売上（受注・出荷）D I（前年同月比）の推移

	18年 12月	19年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6～8月
全産業	17.6	21.5	19.7	19.5	20.3	19.9	15.9 (13.8)
建設	27.3	29.7	30.0	35.8	34.8	37.8	31.5 (29.6)
製造	4.2	8.9	0.5	6.5	9.3	9.1	11.3 (2.3)
卸売	22.5	29.4	33.3	34.4	36.3	22.8	16.0 (19.0)
小売	19.5	26.6	26.0	19.7	18.5	19.8	11.9 (13.6)
サービス	20.9	20.0	20.0	16.8	18.1	18.4	15.6 (13.9)

《売上（受注・出荷）D I（全産業・前年同月比）の推移》



【採算の状況についての判断】

採算面では、全産業合計の採算D Iは、マイナス幅が0.4ポイント縮小して25.2となり、2カ月ぶりに縮小した。産業別にみると、D I値のマイナス幅は建設、製造、サービスで拡大したものの、他の2業種で縮小した。

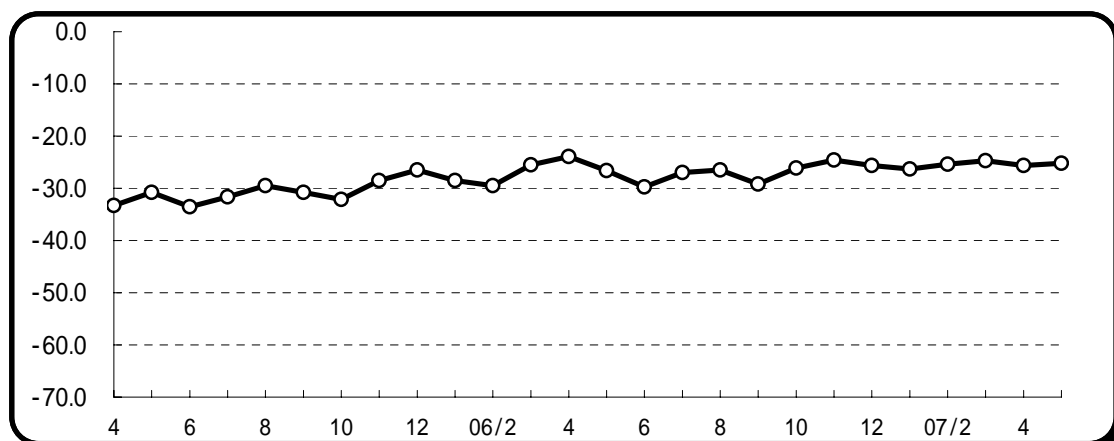
向こう3カ月(6月～8月)の先行き見通しについては、全産業合計の採算D I(今月比ベース)が20.8と、昨年同時期の先行き見通し(21.6)に比べて改善している。

産業別に昨年同時期の先行き見通しと比較した場合、建設、製造、サービスでマイナス幅が拡大しているものの、他の2業種で縮小している。

採算D I (前年同月比) の推移

	18年 12月	19年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6～8月
全産業	25.6	26.3	25.4	24.7	25.6	25.2	20.8 (21.6)
建設	43.0	41.4	36.2	39.9	41.2	45.2	43.8 (37.8)
製造	18.8	20.4	16.0	20.9	24.1	24.9	19.7 (19.6)
卸売	30.6	31.3	31.4	34.4	32.5	24.1	14.2 (28.8)
小売	18.5	24.1	25.4	17.5	19.6	17.7	12.4 (14.3)
サービス	27.8	23.6	25.9	24.2	21.2	22.0	20.1 (19.3)

《採算D I (全産業・前年同月比) の推移》



(参考)

資金繰りD I (前年同月比)の推移

	18年 12月	19年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6~8月
全産業	17.6	19.6	19.5	20.1	18.3	18.2	18.0 (16.7)
建設	29.5	30.5	29.6	36.8	27.5	33.6	32.0 (33.1)
製造	13.9	14.0	11.1	12.5	13.2	14.9	14.7 (11.6)
卸売	19.3	18.5	19.0	18.6	20.4	10.1	14.2 (19.7)
小売	13.6	19.6	21.5	17.6	16.0	15.8	15.0 (14.5)
サービス	17.1	18.4	19.6	20.8	19.4	16.8	17.4 (12.6)

D I = (好転の回答割合) - (悪化の回答割合)

【前年同月比D I】全産業合計は悪化超感が2カ月連続で弱まった。産業別にみると、建設、製造で悪化超感が強まったものの、他の3業種で弱まった。

【先行き見通しD I】全産業合計は悪化超感が強まる見通し。産業別にみると、建設、卸売で悪化超感が弱まる一方、他の3業種で強まる見通し。

仕入単価D I (前年同月比)の推移

	18年 12月	19年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6~8月
全産業	26.0	21.8	21.0	23.2	25.6	28.5	24.0 (24.0)
建設	38.0	34.1	34.1	35.8	39.9	40.7	32.3 (36.6)
製造	42.9	40.0	34.8	41.7	41.5	49.4	37.3 (32.3)
卸売	27.5	15.0	20.1	25.8	27.6	19.1	17.9 (26.4)
小売	8.7	7.5	6.9	10.1	9.4	14.6	14.0 (12.8)
サービス	20.4	15.0	15.6	11.5	18.0	19.3	19.4 (20.0)

D I = (下落の回答割合) - (上昇の回答割合)

【前年同月比D I】全産業合計は上昇超感が3カ月連続で強まった。産業別にみると、卸売で上昇超感が弱まる一方、他の4業種で強まった。

【先行き見通しD I】全産業合計は上昇超感横ばいの見通し。産業別にみると、製造、小売で上昇超感が強まる一方、他の3業種で弱まる見通し。

従業員 D I (前年同月比) の推移

	18年 12月	19年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6～8月
全産業	2.7	0.2	0.6	0.5	0.6	0.2	1.4 (2.4)
建設	12.9	14.7	14.7	16.1	14.1	17.0	15.4 (19.0)
製造	3.9	0.0	3.6	1.8	0.2	1.4	0.8 (2.8)
卸売	1.3	5.0	6.9	5.3	3.8	1.2	8.0 (1.5)
小売	8.2	6.0	5.9	8.5	10.1	6.4	4.2 (3.5)
サービス	7.0	3.4	3.9	1.8	1.4	3.4	1.9 (1.5)

D I = (不足の回答割合) - (過剰の回答割合)

- 【前年同月比 D I】全産業合計は不足超感が 2 カ月ぶりに弱まった。産業別にみると、サービスで不足超感が強まり、製造で不足超感に転じ、卸売で過剰超感が弱まる一方、建設で過剰超感が強まり小売で不足超感が弱まった。
- 【先行き見通し D I】全産業合計は過剰超感が弱まる見通し。産業別にみると、卸売で過剰超感が強まる一方、製造、小売、サービスで不足超感が強まり、建設で過剰超感が弱まる見通し。

【平成19年5月の景気キーワード】

回復への動き

ヒアリング先からは、「業況は回復している」(秋田・管工事)「業況は安定している。原材料価格が上昇傾向にあるなど不安材料はあるが、受注も堅調に推移している」(館山・金属加工機械製造)「受注は先月に引き続き好調に推移している。資金繰りも改善傾向にある」(静岡・自動車付属品製造)「売上の増加が見込まれる」(帯広・各種商品卸売)「美術品や呉服などの売上が好調だった」(金沢・百貨店)「業況が回復傾向にある中、従業員の確保が困難になってきている」(京都・旅館)とのコメントが寄せられている。

仕入コストの上昇

また、原材料価格の高騰による仕入コストの上昇を訴える声が寄せられている。建設、製造からは、「原油価格の高騰により、仕入コストや配送コストが増加し、収益が悪化している。特に、鋼材、ステンレス、プラスチックを含む建設資材の仕入単価が上昇している」(静岡・一般工事)「紙の仕入価格が上昇し、業界を取り巻く環境は依然として厳しい」(千葉・印刷業)「ガソリン、ステンレス、アルミニウム、メッキ等の価格が上昇している」(水戸・金属加工機械製造)との声が寄せられている。また、サービスからは、「燃料費の値上がりが懸念される」(松山・旅館)といったコメントも寄せられている。

販売価格の低迷

さらに、販売価格の低迷に関する声も聞かれている。建設、製造からは、「仕入単価の上昇に加え、販売単価が低迷しており、苦しい経営状況が続いている」(金沢・建築工事)「原材料価格が徐々に値上がりしている一方、販売価格への転嫁が困難なため、採算への悪影響が出始めている」(千葉・一般産業用機械製造)との声が寄せられている。また、小売からは、「仕入価格が高くても販売価格に転嫁することができないため業況は厳しい」(銚子・商店街)といったコメントも寄せられている。

【景気キーワードの推移】

年 月		景気キーワード		
19年	3月	景況一進一退	仕入コストの上昇	日銀利上げ後の影響
	4月	景況一進一退	仕入コストの上昇	日銀利上げ後の影響
	5月	回復への動き	仕入コストの上昇	販売価格の低迷

景気キーワードは、調査対象組合の各月におけるトピック・関心事項などに関する自由回答をまとめたもの。

本文中の()内は、(地名・業種)を示す。

【産業別概況】

産 業	概 況
建 設	業況・売上D Iは2カ月ぶりにマイナス幅が拡大、採算D Iも3カ月連続で拡大した。「先月の売上が大きく落ち込み不安材料となっていたが、今月は前年並みに回復した」(管工事)との声がある一方、「公共工事、民間工事とも依然として受注の増加が見込めず、業界にとって引き続き厳しい経営環境が続いている」(一般工事)「原油価格や資材価格の上昇分を販売価格に転嫁することができず、苦しい経営状況が続いている」(建築工事)といった声も寄せられている。
製 造	業況・採算D Iは3カ月連続でマイナス幅が拡大、売上D Iは3カ月ぶりに縮小した。「原油高に伴う仕入価格の上昇が懸念されるが、業況好転の兆しはある」(かばん製造)「原油価格の高騰によりタイヤ等樹脂関連製品の値上がりが懸念されるが、売上は概ね好調に推移している」(一般産業用機械製造)との声がある一方、「原材料価格の高騰により採算が悪化している」(セメント・製品製造)「石油製品や金属類の価格が上昇している。報道されているような景気の回復感はない」(表面処理鋼材製造)といった声が寄せられている。
卸 売	業況・売上D Iは5カ月ぶりにマイナス幅が縮小、採算D Iも2カ月連続で縮小した。「先行きは不透明だが、売上が増加しており、業況も好転したと思われる」(農畜産水産物卸売)との声がある一方、「文具・事務用品部門では、企業の事業縮小や官公庁の経費削減などの影響か、売上がやや減少傾向にある。建設資材部門では、原材料価格の高騰により仕入コストが増加し、収益が悪化している」(衣服・日用品卸売)「燃料費の高騰により配送コストが上昇し、対応に苦慮している」(食料・飲料卸売)といった声が寄せられている。
小 売	業況D Iは3カ月ぶり、売上D Iは4カ月ぶりにマイナス幅が拡大、採算D Iは2カ月ぶりに縮小した。「大型店を中心に業況は改善している。売上もここ10年間の横ばい状態をようやく脱した」(商店街)との声がある一方、「消費者の商店街離れが進行している気がする。来店客数が減少し、業況は非常に厳しい」(商店街)「景気回復感はない。売上は前年割れが続いている。このままではリニューアル等の設備投資ができず、ますます客離れが進むのではないかと懸念している」(百貨店)といった声が寄せられている。
サービス	業況D Iは2カ月ぶりにマイナス幅が縮小、売上D Iは2カ月連続、採算D Iは3カ月ぶりに拡大した。「先行き見通しは不透明であるが、今月は長期滞在客が増加し、稼働率は非常に高かった」(旅館)との声がある一方、「来店客数が減少し、売上が大幅に落ち込んだ。景気回復感はない」(理容)「同業者間の過当競争により、売上単価が下落している。また、原油価格の高騰により仕入コストが増加し、採算も悪化している」(旅館)といった声が寄せられている。

(参考)

【ブロック別概況】

ブロック別の業況D I (前年同月比ベース)は、北海道、東北、東海、近畿でマイナス幅が拡大、北陸信越で横ばいとなったものの、他の4ブロックで縮小した。なお、全ブロック合計は4カ月連続でマイナス幅が縮小した。

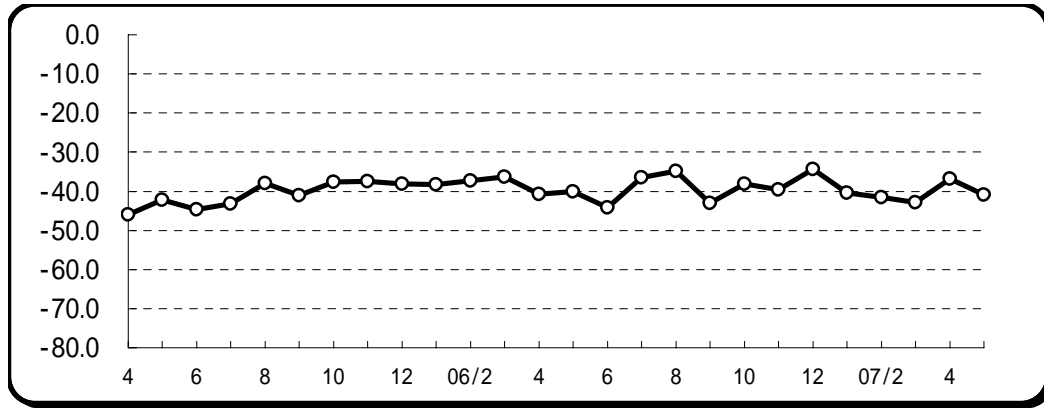
ブロック別の向こう3カ月(6月~8月)の業況の先行き見通しは、昨年同時期と比べて、関東で改善しているものの、他の8ブロックで悪化している。なお、全ブロック合計は悪化している。

ブロック別・全産業業況D I (前年同月比)の推移

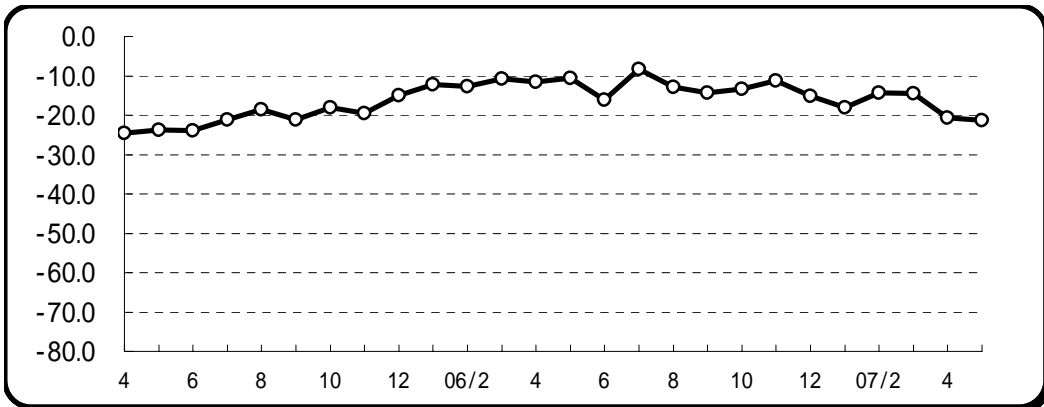
	18年 12月	19年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6~8月
全 国	25.2	28.0	27.8	26.0	25.3	25.1	23.1 (18.2)
北海道	32.7	39.8	39.0	41.0	27.4	33.1	31.4 (16.8)
東 北	27.4	29.3	36.7	29.2	27.0	28.3	28.9 (22.7)
北陸信越	11.7	17.0	14.0	23.7	27.0	27.0	17.2 (6.8)
関 東	23.4	25.2	23.4	22.2	20.2	18.5	14.6 (17.4)
東 海	22.4	19.0	19.8	17.8	23.5	28.5	26.3 (15.7)
近 畿	26.4	33.1	34.2	25.4	24.2	25.1	24.3 (18.5)
中 国	26.5	32.1	35.0	28.8	37.2	29.8	31.3 (27.6)
四 国	38.6	40.0	33.6	34.0	32.3	29.9	33.6 (29.7)
九 州	27.0	25.0	28.6	24.8	22.2	21.3	20.8 (15.3)

業況D I（前年同月比）の推移（全国）

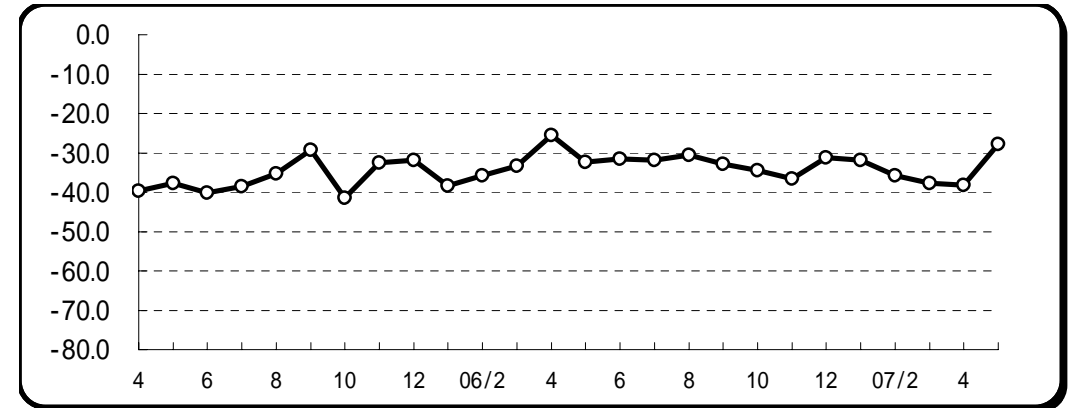
建設業



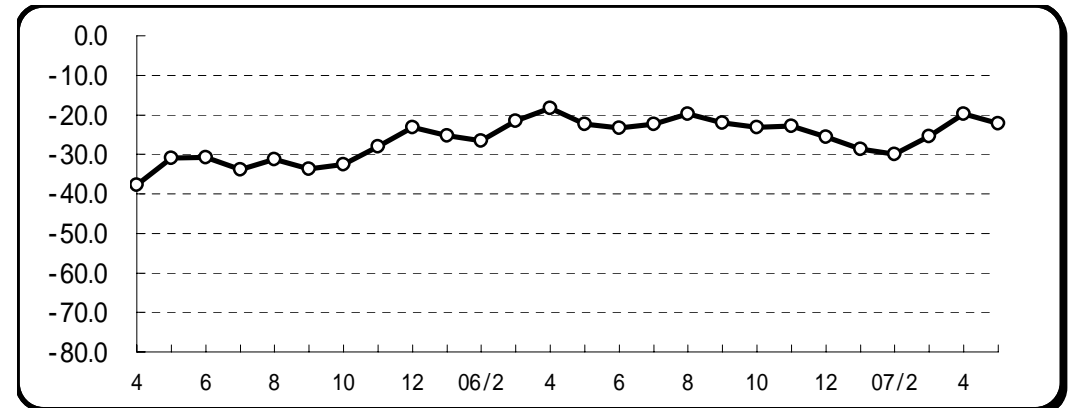
製造業



卸売業



小売業



サービス業

